

1-2 ホーンセクションの音域

音域を理解することの重要性

管楽器に限らず、楽器にはそれぞれ得意な音域や、音域による音色の違いがある。これらを理解しないままアレンジ&打ち込みをしてしまうと、

- 演奏ができない(または演奏が困難)
- よく鳴らない(響かない)
- 打ち込みがまったくリアルに聞こえない

などの不都合が起きるため十分に注意しよう！

生演奏を収録する場合はもちろん、打ち込みだけでアレンジする場合にも、音域を守ることでリアルさが格段に増すので、必ず音域に注意を払ってアレンジするよう心がけよう。

移調楽器について

移調楽器とは、その楽器の持つキーが「Cメジャーキー」以外の楽器を指す。簡単にいうと、「ドレミファソラシド」と演奏した際に、「C D E F G A B C」という音列ではなく、他のキーのスケールになる楽器のこと。例えばトランペットはBb管なので、「ドレミファソラシド」を演奏すると、「Bb C D Eb F G A Bb」という音列になる。主な移調楽器は以下の通り。

【金管楽器】

- トランペット、トロンボーン、チューバ → Bb管
- ホルン → F管

【木管楽器】

- クラリネット → Bb管(A管のものも存在する)
- サックス → Bb管、Eb管

移調楽器と記譜

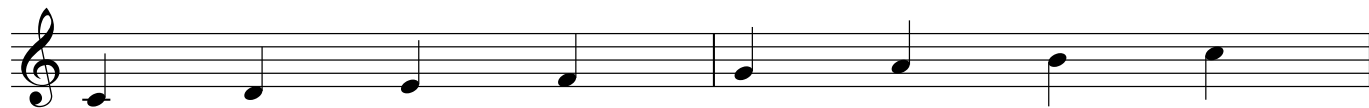
ほとんどの移調楽器では、移調した状態(移動ド)で記譜する。例えば、Cメジャーキーの楽曲を記譜したい場合、以下のように記譜することになる。

- Bb管のトランペットではシャープを2個(見た目はDメジャーキー)
- Eb管のアルトサクソではシャープを3個(見た目はAメジャーキー)

ただし、トロンボーンとチューバは例外で、いずれもBb管の楽器ではあるものの実音で記譜するのが通例。

移調楽器と記譜

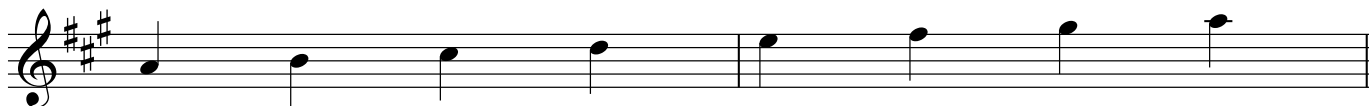
Cメジャースケール
(実音)



Bb管での記譜
(トランペット等)



Eb管での記譜
(アルトサックス等)



トロンボーン &
チューバは実音表記



移動ドで記譜する理由

トランペットやサクソなど、移動ドで記譜する必要のある楽器は、原則「持ち替え楽器」となっている。(=楽曲のキーや状況に応じて、異なるキーの楽器に持ち替える可能性がある楽器。)例えば、以下のようなケースが考えられる。

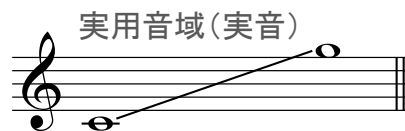
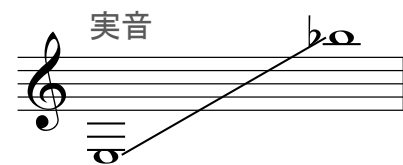
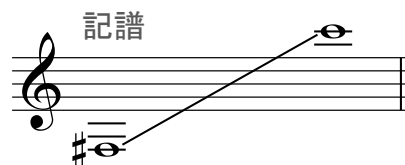
- トランペット: Bb管からC管に持ち替え、A管のピッコロトランペットに持ち替え
- サクソ: Eb管のアルトから、Bb管のソプラノ&テナーサクソに持ち替え

楽譜が実音で書かれていると、持ち替えるたびに楽譜上の音符と指使いが変わってしまい、演奏が煩雑になる。したがって、いつでも「同じ音符 = 同じ指使い」で演奏できるよう、移動ドで記譜した方が都合がいいということになる。

トランペットの音域と特徴



音域



音域はE2～Bb4まで。
実用音域はC3～G4までが無難。

特徴

繊細な音からパワフルな音まで幅広くこなせるホーンセクションの花形。

Bb管がもっともメジャーだが、クラシックなどではC管を使用することもある。

移調楽器であるため、譜面は移動ドで記入。(譜面上で「ド」の高さが、実音では「Bb」になる。)

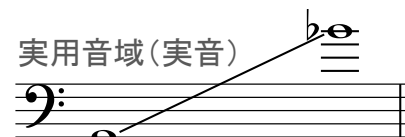
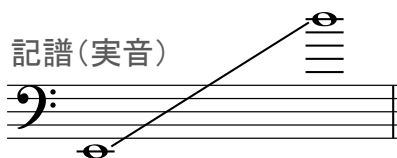
音域は上記の通りだが、ジャズプレイヤーやスタジオミュージシャンなど、さらに高い音域を演奏可能なハイトーンプレイヤーも存在する。(ただし乱用は禁物。)

トロンボーンの音域と特徴

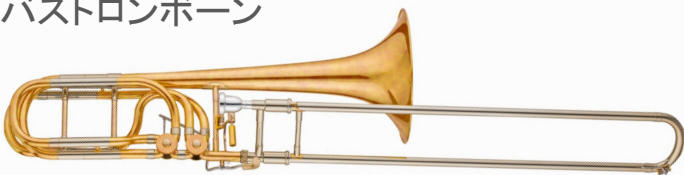
テナートロンボーン



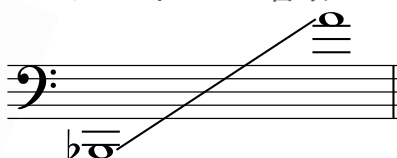
音域



バストロンボーン



バストロンボーンの音域



テナートロンボーンの音域は
E1～D4まで。
実用音域はG1～Bb3までが無難。

バストロンボーンは低域が拡張され、
Bb0から演奏可能。

特徴

ホーンセクションの中低域を担当する楽器。スライドと呼ばれる特殊な機構が特徴。

トランペット同様Bb管だが、譜面は実音で記入する。

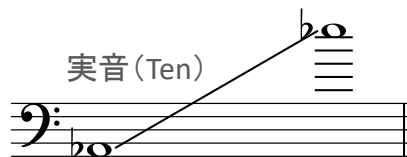
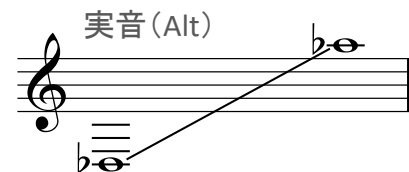
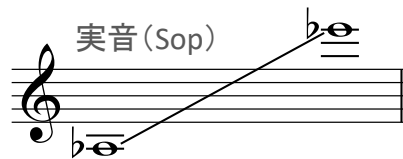
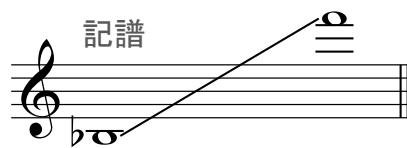
スタンダードなテナートロンボーンと、バルブによるキーの切り替えで低音域が拡張されたバストロンボーンと呼ばれる種類がある。(双方の特徴を備えたテナーバストロンボーンというものも存在する。)

音域はトランペットよりも広く、パワフルな低音から甘く柔らかい高音まで幅広い表現力が魅力。

サクスの音域と特徴



音域



ソプラノはAb2～Eb5まで。
アルトはDb2～Ab4まで。
テナーはAb1～Eb4まで。
バリトンはDb1～Ab3まで。

特徴

木管楽器ながらも、力強い音色で金管楽器と馴染みがよく、ホーンセクションには欠かせない存在。

ソプラノ、アルト、テナー、バリトンなど、音域によって様々な種類が存在する。

移調楽器であるため、譜面はすべて移動ドで記入。(Bb管のソプラノ&テナーは「ド=Bb」、Eb管のアルト&バリトンは「ド=Eb」)

金管楽器とのコラボはもちろん、サクスのみでアンサンブルを組むことも少なくない。